

Solan Primary School
4th grade news letter

Venture Fourth

2024. Jan 24

雪に喜び庭駆けまわる



緑の芝生が、雪の白に一面包まれていました。

朝から降り続けた雪は、グラウンドだけでなく町全体を一気に冬仕様へ。

雪国育ちの私からすると、何らおかしくない出来事ですが、東海の子どもたちにとってみれば完璧な非日常です。

「先生、マイタイムに遊んできていい!？」

と多くの子が聞きに来ました。

マイタイムとは、自分にとって必要なこと、大切なことは何かを考えて実行に移す時間です。

ですから、私は次のように言いました。

「雪で遊べるのは今だけです。今行かなくていつ行くんですか！」

と返すと、

「さっすが渡辺先生——！！」

と大声を上げながら、子どもたちは外に駆けだしていきました。

以前も書きましたが、昔から日本人は日常の事を「ケ」と呼び、祭りや行事ごとなどの非日常を「ハレ」と呼んできました。

日常の「ケ」では、贅沢や遊びをつつしんで地道に働きました。

一方で、祭りや正月、節句といったハレの日には、ごちそうを食べたり賑やかにお祝いをしたりしました。

晴れ舞台、晴れ着などの「ハレ」という言葉はまさにそれです。

また、祭りのにぎやかさ、荒々しさもハレの日ならではのものです。

普段は秩序を乱さないようにしますが、ハレの日にはそこからはみ出すことが良いとされました。

「ハレ」と「ケ」。大切に受け継いでいきたい日本の文化です。

こうした雪が珍しく降った日も、一つのハレ（非日常）と言えるでしょう。

普段とは違う中だからこそ感じられることもあります。

4年生のみんなの学習態度や生活は、最初の頃とは天と地ほどの差があります。それだけ、「ケ」の中において大きく成長したということです。

全国から来られた先生方のレポートにも、沢山の驚きや感動が溢れていましたね。ハレの日のダイナミックさにも、より磨きをかけていきましょう。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

